

# 先進事例を見る

全国中央会では、中小企業や中小企業組合関係者が、新たな共同事業の実施や組織体制の見直し等を行う際の参考になるよう、都道府県中央会と連携し、毎年テーマを決めて共同事業等に先進的に取り組んでいる組合事例を収集しています。昭和57年度より事業がスタートし、これまでに収録した組合事例は6,000組合を超えています。

毎年、詳細な調査・分析を行い、これをもとに組合事例のエッセンスを取りまとめ、報告書（先進組合事例抄録）及びホームページで公開しています。

今回は、平成28年度の先進事例（組合資料集加工事業報告書）から「地域活性化・地域社会への貢献」の事例をご紹介します。

## 企業組合アップル工房イイダ

### — 農福連携で、障害者の自立とビジネスの両立を実現 —

住 所	(〒395-0001) 長野県飯田市座光寺1351番地2		
電話番号	0265-56-1155	U R L	<a href="http://www.apple-studio.or.jp/">http://www.apple-studio.or.jp/</a>
設 立	平成15年12月	出 資 金	310千円
主 な 業 種	クリーニングリネンサプライ、農産物生産・販売、オンデマンド印刷	組 合 員	19人

#### ■背景と目的

障害者を「貴重な人的資源」と捉える理事長と、自らが労働し活躍することで健常者と変わらない「社会の中での自立」を望む障害を持った組合員がともに働く場をつくる、との理念のもと組合を設立し14年目を迎えた。現在は「農産事業」「リネン事業」「オンデマンド事業」の3つを柱に事業運営を行い、他事業者と遜色ない品質、サービスの提供を通じてビジネスモデルを確立させている。

#### ■事業・活動の内容と手法

障害者就労継続支援A型事業所の認可を受け、障害者の働く場として農産事業・クリーニング事業・オンデマンド印刷事業に取り組んでいる。農産事業は菌床しいたけの生産販売をおこない、オリジナルブランド「南信州美しいたけ」として、長野県全域のほか、東京、愛知、山梨へと広く販売をしている。現場の作業はほぼ障害者が担当し、組合員は作業支援をしながら品質管理をおこなう形で、一般企業に負けない商品、サービス品質を実現し、障害者の賃金も県の最低賃金以上を達成している。今後も継続して品質の良いしいたけを作ることと、二本目の柱になる他のきのこの栽培を目指している。品質の向上に向けては、新品種の試験栽培、培地の工夫による改善に取り組む。また、国内市場の95%以上が中国産で占められており、今後国産品のマーケットが広がると考えられる「きくらげ」の栽培にも着目し、安定的な生産が実現できるよう積極的に取り組んでいる。

#### ■成 果

まずは組織形態を株式会社ではなく企業組合とした点の意義が大きい。障害を持つ方が「雇われている」という感覚ではなく、「自分達が経営に参加して商売をしている」という意識が日頃の業務へのモチベーションとなり、精神的な自立にも繋がる。そうした意識の中で行われる仕事が、販売する商品・サービスを一般のものと同様に遜色なく、あるいはより品質を高めるといった好循環を生んでいる。また、今村理事長の先見性・リーダーシップは、今日の当組合にとって欠く事のできないものであったと言える。



農産事業部(しいたけ出荷工程)



リネン事業部(クリーニング工程)



#### 事業・活動推進のキーファクター

前職で経営コンサルタントをしていた理事長のネットワークを活かし、ビジネスパートナー（農産提携、リネンサプライ提携）との関係を構築し、ノウハウ等が共有できた。